

第92期

事業報告書

2025年4月1日から2026年3月31日まで

トップインタビュー



代表取締役会長CEO

代表取締役社長COO

八木 誠一郎

森 克則

株主の皆さまには、平素より格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。ここに2026年3月期の事業の概況につきまして、ご報告申し上げます。

Q A 2026年3月期のフクビ化学はどのような1年でしたか？

当連結会計年度の売上高は、新築・リフォームを問わず求められる高性能断熱材の伸長に加え、非住宅建物向けや車両関連部材が復調したことから405億94百万円と前期比1.6%の増収となりました。

利益面では、売上総利益は製造コストの上昇に対して生産性の向上に取り組み、123億74百万円(前期比3.2%増)となりました。営業利益は人件費やデジタル関連費用が増加したものの、売上総利益の増加によりこれを吸収し、17億33百万円(同11.8%増)の増益となりました。経常利益は為替差益等の計上もあり21億48百万円(同14.1%増)、親会社株主に帰属する当期純利益は投資有価証券売却益等の計上により16億80百万円(同14.6%増)となりました。

当社グループでは、第7次中期経営計画(2023年度～2027年度)の3年目として、「技術を押出し、未来へワクワク」のスローガンのもと、3つの基本方針「循環型ビジネス拡大」、「強靱な収益基盤構築」、「成長を後押しする組織づくり」に基づいた取り組みにより、企業価値向上に努めました。

●循環型ビジネス拡大

環境配慮型商品のブランド展開とプラスチックリサイクル領域の拡大を加速させ、循環型社会の実現と持続的成長の両立を図っております。

〈新ブランドの立ち上げ〉

主力の再生木材「プラスッド」が好調に推移する中、『プラスッド デッキND KKA』は「2025年度グッドデザイン賞」を受賞し、高い意匠性と環境性能が市場で高く評価されています。これまで培ってきたパブリック空間向けプロダクトの

開発や空間づくりを起点に、多様な人やアイデアが交わり、まちと人の関係を育むプラットフォーム型事業ブランド「Fukuvii commons」を立ち上げました。

〈地域資源の活用と技術革新〉

奈良県産材や宮城県産材を活用した製品開発を通じ、地域との連携を進めました。技術面では、CFRTP(熱可塑性炭素繊維複合材)の一貫製造プロセスが「NEDO省エネルギー技術開発賞」理事長賞を受賞したほか、欧州をはじめとするグローバル自動車メーカーの環境規制に対応するため、他社に先駆けてフッ素化合物(PFAS)を一切使用しない「光ガイドイングバーPFASフリータイプ」の開発に成功しました。

〈社会課題解決への取り組み〉

廃校を活用した産学官連携による断熱改修実証プロジェクトを開始し、次世代学校整備モデルの構築など既存建物の長寿命化と環境負荷低減に貢献してまいります。

●強靱な収益基盤構築

材料配合・成形加工技術という独自の強みを活かし、資本コストを上回る収益性の実現に向けた最適化を進めました。

〈断熱事業の強化〉

高性能断熱材「フェノバボード」の需要拡大を受け、当社が100%出資する連結子会社であるフクビ岡山株式会社の第2工場建設を決定いたしました。これは経済産業省の「大規模成長投資補助金」に採択された事業であり、福井との2拠点体制の確立により、BCP(事業継続計画)対応力と安定供給体制を同時に強化いたします。

〈成長分野の伸長〉

工場・倉庫向け商品「PLANTOOL」や、自動車内装のイルミネーション部材などに使用される「光ガイドイングバー」が好調に推移し、収益を牽引しております。

〈事業の再編〉

2026年4月より、グループ内の工事事業を統合し「フクビ・リフォジュールアーキテクト株式会社」に再編いたしました。これにより、リソースの最適配置と効率化を加速させるとともに、営業力・製品力・工事ネットワークを一層強化し、さらなる事業の拡大と収益性の向上を図ってまいります。

●成長を後押しする組織づくり

「企業価値向上2030」の達成に向け、人的資本への積極投資とガバナンスの高度化を推進いたしました。

〈組織風土の刷新〉

柔軟な働き方の推進の一環として男性の育休取得を推奨するとともに、周囲の業務をサポートする従業員への「育児休業取得支援制度(特別手当)」を新設いたしました。これらを通じ、多様な人材が能力を発揮できる清新な組織風土を醸成し、従業員エンゲージメントの向上を図っております。

〈AI・デジタル戦略〉

全社員対象の「AI学習プログラム」によるリテラシー底上げと、ガバナンスの観点から「利用ガイドライン」の策定を並行して実施いたしました。

〈未来への挑戦〉

「AIチャレンジプロジェクト」を実施し、業務効率化のみならず、予測困難な(VUCA)時代において新たな価値を創出するイノベーション体制を加速させております。

セグメント別 売上高状況

(単位:百万円、%)

	前連結会計年度	当連結会計年度	増減額	増減率
建 材 事 業	25,641	25,440	△201	△0.8
C S E 事 業	10,059	10,160	101	1.0
精 密 事 業	1,593	2,071	478	30.0
グ ロー ブ ル 事 業	3,462	3,790	328	9.5

Q A 今後の対処すべき課題について教えてください。

当社グループを取り巻く経営環境は、世界的な地政学リスクの高まりや資源価格の高騰、為替相場の変動に加え、デジタル技術の進展に伴う産業構造の変化など、依然として先行きが不透明な状況にあります。

このような市場環境の「変化」を「新たな成長への機会」と捉え、既存のビジネスモデルの枠組みを超えた変革を加速させていく局面にあると認識しております。従来にない発想と行動で強固な経営基盤を構築するとともに、次世代を見据えた成長投資とイノベーションを推進するため、以下の重点課題に取り組んでまいります。

①循環型ビジネスの拡大と推進

当社グループは、プラスチック製品の開発型メーカーとして原材料の配合と成形技術の分野で高いポテンシャルを有しています。第7次中期経営計画では、「循環型ビジネス拡大」を基本戦略の1つとして掲げ、フクビ独自の環境配慮型商品認証制度[Fukuvalue]の認証商品充実を図ってきました。現下の不透明な国際情勢において、当社グループの果たすべき役割はこれまで以上に高まっており、長年培った思想や技術をさらに進化させ、環境負荷の少ない製品開発や設計に最大限生かすことで社会課題の解決と収益機会の拡大の両立を進めてまいります。具体的には、木材資源や再生プラスチックの活用を加速させるとともに、成長牽引分野として位置付けている新熟事業において、大規模な生産拠点への投資を実行いたします。

②強固な収益基盤の構築と資本コスト経営の実践

当社グループの価値向上に向けて成長戦略と財務戦略を両輪で進めてまいります。成長戦略では、新たな事業領域へのチャレンジとして、2026年4月に建設工事を担う「フクビリアフォジュールアーキテクト株式会社」をスタートさせました(以下FRA)。当社グループの工事関連事業をFRAに統合・集約することで、メーカーとしての製品力と施工品質を融合させた、より付加価値の高いサービスを提供し「稼ぐ力」につなげてまいります。また、2024年1月にスタートさせた新基幹システム(ERP)により可能となったデータ分析を事業ポートフォリオの最適化に生かすとともに、ROIC(投下資本利益率)などの資本効率を意識した経営の実践を進めます。これにより創出した資金については、成長領域への投資と株主還元を念頭に最適なアロケーションを目指してまいります。

③グローバル基盤の強靱化

海外市場の中では、特に北米市場について、成長が見込める有望市場として認識しており、国内外の体制を整えた上で推進に臨みます。既に建材品の一部や車向部材は好調に推移しているものもあり、それら製品の拡大をテコに強固なグローバル事業基盤を確立してまいります。

サプライチェーンについては、中東情勢をはじめとする国際情勢の変化が激しい中、動向を見極めつつさらなる強靱化を図っていく必要があると認識しています。また採算改善やリスク分散の観点から最適な生産アロケーションの検討を進めてまいりましたが、2026年度中に国内生産製品の一部について、ASEAN地域への移管を実施する予定です。

④人的資本経営の推進とAI活用

人的資本経営推進の観点から、人への投資を不断に実施することで従業員の成長を後押しする組織を構築してまいります。従業員が自主的にキャリア形成に挑戦できる「チャレンジ・ジョブ制度」の運用や、全社エンゲージメント調査結果の分析を通じて安全・安心で働きがいのある職場環境の整備を進めます。

AI活用では、「AIイノベーション・チャレンジプログラム」の社内公募を実施したところ、多数の社内応募があり、その中から数件を採用しトライアルに臨みます。また、「AI学習プログラム」を活用して全社的なデジタルリテラシーの向上を図るとともに、業務効率の改善や競争力強化につなげてまいります。

Q A 最後に、株主さまへのメッセージをお願いします。

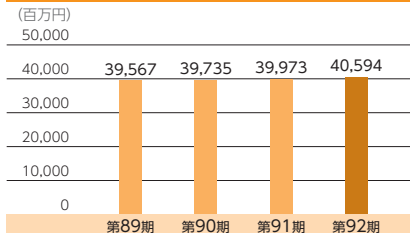
当社グループが主要マーケットとする国内住宅業界では、金利上昇による住宅取得意欲への影響に加え、エネルギー費や物流費、各種資材価格の再高騰に伴う建設コスト増が続いており、新設住宅着工戸数は引き続き低水準での推移が予想されます。また、建設業界全体の構造的課題である人手不足と高齢化は引き続き顕在化しており、生産性向上や施工省力化へのニーズは高まりつつあります。

こうした先行き不透明な環境下において、当社グループは、特定の地域やルートに依存しない調達網の多角化によるサプライチェーンの強靱化を急ぐとともに、コスト変動の可視化と適切な価格転嫁を実施し、安定的な収益確保に努めてまいります。同時に、この変革期を持続的な成長への機会と捉え、建築物省エネ法改正により今後の需要増が期待される高性能断熱材「フェノバード」の増産体制構築や、環境規制に対応する自動車内装向け部材のPFASフリー対応「光ガイドイングバー」など、成長牽引分野への戦略的投資を加速させます。さらに、既存建物向け市場におけるリフォーム・リノベーション事業や非住宅建築物分野の成長を確実なものとするため、グループ内の工事事業を当社が100%出資する連結子会社であるフクビ・リアフォジュールアーキテクト株式会社に統合し、工事請負業の専門性と機動力を飛躍的に高めることで、単なる資材提供に留まらないソリューションビジネスへの転換を推進してまいります。

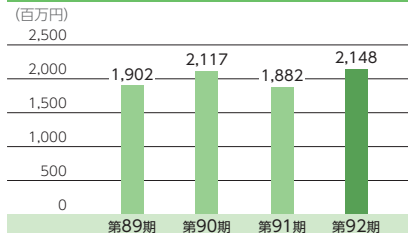
第7次中期経営計画における3つの基本戦略「循環型ビジネス拡大」「強固な収益基盤構築」「成長を後押しする組織づくり」を積極的に推進し、ROEの向上など持続的な企業価値の最大化を目指してまいります。なお、2027年3月期第1四半期の業績は、売上高102億円、営業利益4億円、経常利益5億円、親会社株主に帰属する四半期純利益4億300万円を予想しています。通期業績につきましては、「未定」とし、合理的に予測可能となった時点で公表いたします。

今後とも中長期を見据えた計画の着実な実行により株主の皆さまのご期待に応える企業へも成長を果たす所存ですので、格別のご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。

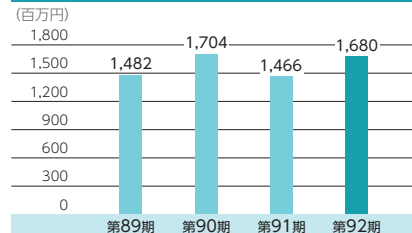
● 連結売上高



● 連結経常利益



● 親会社株主に帰属する当期純利益



2025年10月～2026年5月の主なTOPICS

R&D

「NEDO省エネルギー技術開発賞」理事長賞を受賞



福井県工業技術センターと共同で開発したCFRTP(熱可塑性炭素繊維複合材)の革新的な一貫製造プロセスについて、「NEDO省エネルギー技術開発賞」の最高位である理事長賞を受賞しました。本技術は、薄層フィルムの成型から製品加工までを一貫して行う独自プロセスにより、生産効率の向上とコスト削減を実現するものです。さらに、リサイクル性に優れた熱可塑性樹脂を活用することで、環境負荷の低減にも寄与します。

今後は量産化の検討を進め、自動車分野をはじめとした幅広い用途での展開を通じ、脱炭素社会の実現に貢献してまいります。

成長投資

フクビ岡山「大規模成長投資補助金」の交付決定

当社連結子会社であるフクビ岡山株式会社は、経済産業省の「中堅・中小企業の賃上げに向けた省力化等の大規模成長投資補助金」の交付対象に採択されました。本補助金は、生産向上や持続的な賃上げの実現を目的とした設備投資等を支援するものです。高性能断熱材『フェノバード』の第2生産拠点を新設し、生産効率の向上と供給体制の強化を図ります。(投資規模:3,652百万円、補助金上限額900百万円)今後も市場ニーズに迅速に対応し、事業基盤の強化と企業価値の向上に努めてまいります。



IR

「個人投資家さま向けWEBセミナー」を開催しました



野村インベスター・リレーションズ株式会社主催の個人投資家様向けWEBセミナーに当社の事業概要や成長戦略、最新の業績動向についてご説明するとともに、質疑応答を通じて理解を深めていただきました。今後もステークホルダー様との対話の機会を大切にし、継続的な情報発信に努めてまいります。



人的資本経営

「健康経営優良法人2026(大規模法人部門)」に認定されました



経済産業省と日本健康会議が共同で運営する「健康経営優良法人認定制度」において、2024年、2025年に続き3年連続となる「健康経営優良法人2026(大規模法人部門)」に認定されました。本制度は、従業員の健康管理を経営的な視点で考え、戦略的に実践している法人を顕

彰するものです。従業員一人ひとりの笑顔が、新たな価値創造や地域貢献、持続可能な社会への実現につながる信じ、今後もグループを挙げて、健康経営を推進してまいります。

IR

「株主さま工場見学会」を開催しました

今年で4回目となる「株主さま工場見学会」を福井の本社で開催いたしました。生産現場の見学やショールームでの製品説明を通じ、当社の事業内容を理解いただくとともに、ものづくりへの姿勢をご体感いただきました。また、質疑応答では活発な意見交換が行われ、現場および経営双方の視点から説明を交えることで当社の取り組みや強みについて理解を一層深めていただきました。今後も開かれたIR活動を行ってまいりますので引き続き、ご支援を賜りますようよろしくお願い申し上げます。



成長戦略

連結子会社への一部事業譲渡および連結子会社の商号変更



当社は、2026年4月1日付で工事業業を連結子会社であるリフォジュール株式会社に譲渡し、同社を「フクビ・リフォジュールアーキテツ株式会社」へ商号変更いたしました。工事機能の集約により、営業・施工体制の強化と効率化を図り、事業拡大と収益性向上を推進します。今後は高付加価値サービスの提供を通じ、グループシナジーの最大化と企業価値向上に取り組んでまいります。

おしだ 技術を押し出し、未来へ ワクワク

これまで培った樹脂加工技術を軸に事業領域を広げ、
サステナブルな社会を創造します。

第7次中期経営計画基本戦略

戦略1

循環型ビジネス拡大

- ・プラスチックリサイクルへ事業領域を拡大し、循環型社会に貢献する
- ・環境配慮型商品のブランド展開とフクビの5R[※]実践によりグループの存在感を高める

※Reduce、Reuse、Recycle、Renewable、Revalue

戦略2

強靱な収益基盤構築

- ・当社の強みである、材料配合・成形加工技術に関するバリューポジションをさらに拡大する
- ・社会のニーズに沿った商品開発や採算性を意識した事業ポートフォリオの再構築、生産性向上によるさらなる原価低減を通じて付加価値をさらに高める

戦略3

成長を後押しする 組織づくり

- ・人的資本への積極的取り組みにより、従業員エンゲージメントを高め、社員の力が最大限発揮できる清新な組織への改革を加速させる
- ・戦略を確実に実行するためのガバナンス体制を強化する

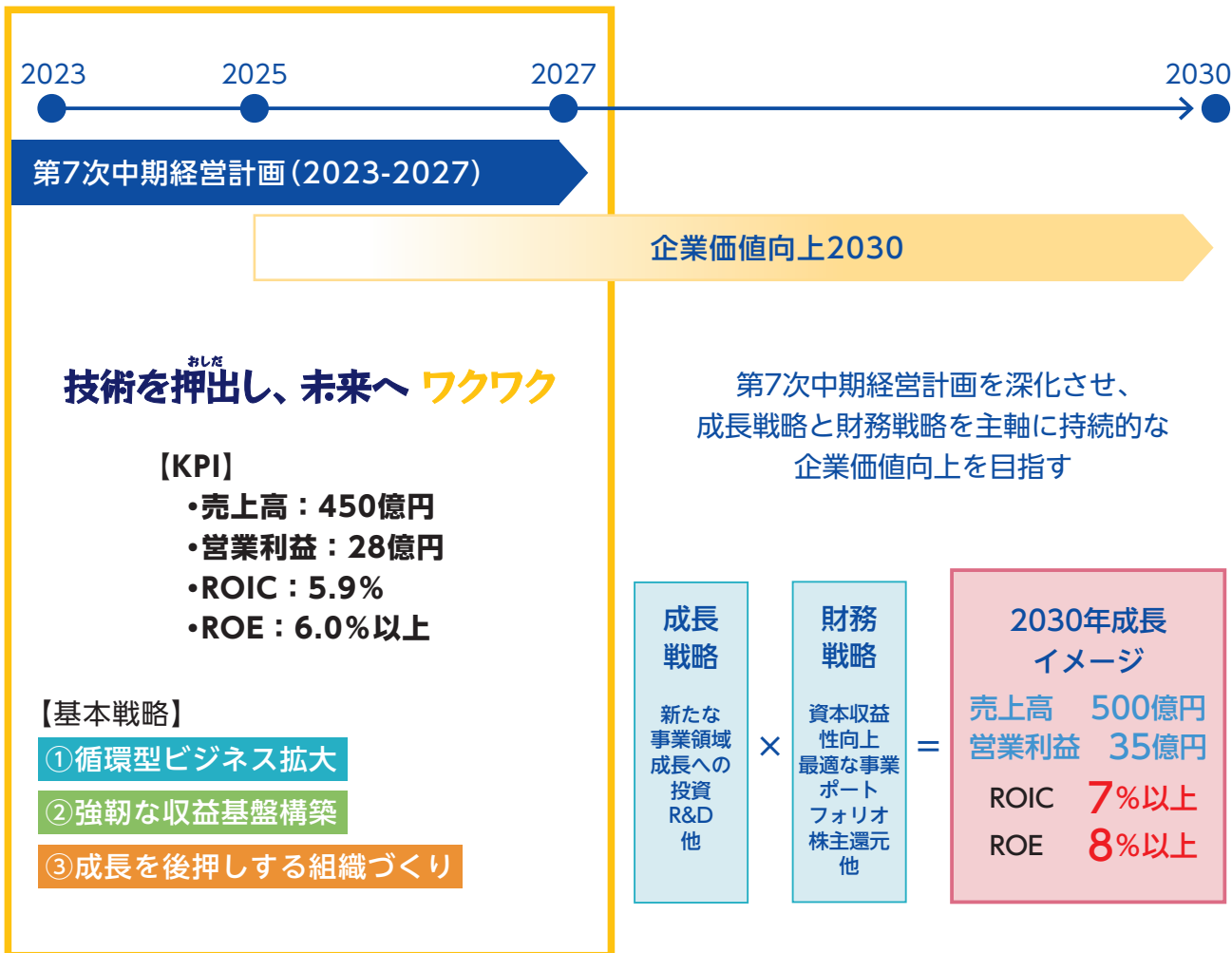
◆数値計画と実績（連結）

		2023年度 実績	2024年度 実績	2025年度 実績	2027年度 計画	長期目標 (2030年度展望)
収益性 (単位：百万円)	売上高	39,735	39,973	40,594	45,000	50,000
	営業利益	1,753	1,550	1,733	2,800	3,500
	経常利益	2,117	1,882	2,148	3,120	—
	親会社株主に 帰属する 当期純利益	1,704	1,466	1,680	2,160	—
資本効率	ROIC (投下資本利益率)	3.3%	3.8%	3.4%	5.9%	—
	ROE (自己資本利益率)	4.9%	4.0%	4.4%	6.0%	—
財務健全性	D/E レシオ	0.034 倍	0.030 倍	0.027 倍	0.4 倍以下	—
	自己資本比率	67.2%	68.7%	72.6%	65.0%	—

第7次中期経営計画(2023年度～2027年度)

中期経営計画策定以後の環境の変化を踏まえつつ、資本コストや株価を意識した経営の実現に向けて中期経営計画を深化させるべく「企業価値向上2030」を策定。

成長戦略と財務戦略を両輪で進め、中計最終年度の2027年度に「**ROE6%以上**」、2030年度には「**ROE8%以上**」の実現を目指す。



ROE向上への取り組み_成長構想

成長領域の拡大・収益力強化と併せて不採算部門等の縮小を実現しROE向上につなげる。

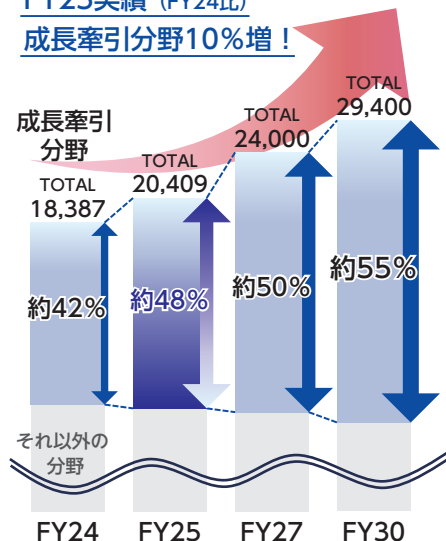
重点事業領域	成長牽引分野	開示セグメント				
		建材	CSE	精密	グローバル	その他
新たな住まい オフィス& ファクトリー   	高性能断熱建築物	●	●			
	リフォーム リノベーション	●	●			
	非住宅建築物(オフィス・ 工場・文教施設など)	●				●
	リサイクル	●	●			
	建築資材・OEM 海外	●	●		●	
	レンズ・カバー・機器等 国内・海外			●		●
モビリティ  	車載 (内装・ディスプレイ) 国内・海外		●	●	●	
インフラ 	海底ケーブル 土木/まちづくり		●			●

成長イメージ・実績

成長牽引分野の売上高約1.6倍へ！(FY24比)

FY25実績 (FY24比)

成長牽引分野10%増！



※ 単位:百万円

※ 棒グラフ軸は売上高。セグメント間取引消去による調整額は考慮せず。

※ FY:Fiscal Year (会計年度)の略

「企業価値向上2030～資本コストや株価を意識した経営の実現に向けて～」の詳細はこちらをご覧ください。

▶ <https://www.fukuvi.co.jp/application/files/1117/4289/1760/2030.pdf>



フクビグループ SDGsの取り組みについて

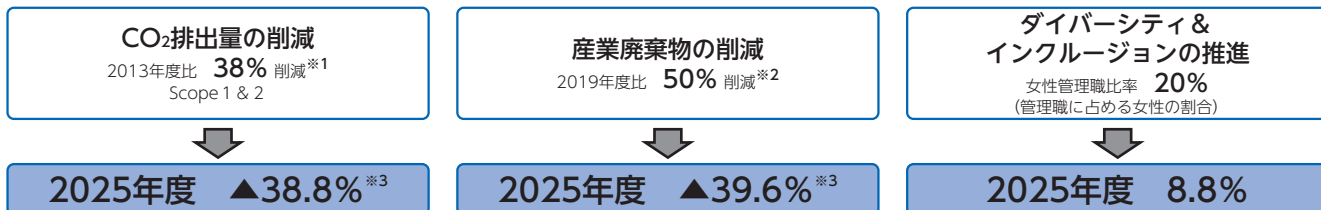
当社グループでは2020年11月にSDGs宣言を行い、2021年5月に具体的数値目標を掲げて、今後定期的に進捗状況をお知らせしていくことといたしました。このたび2025年度までの進捗状況がまとまりましたので、お知らせいたします。



フクビグループ SDGs 4つの基本姿勢・マテリアリティ・KGI・取り組み

<p>基本姿勢 1</p> <p>技術と提案力で 安心・安全・快適な 暮らしをクリエイトする</p>	<p>マテリアリティ：安心・安全・快適な暮らしの提供 KGI：安心・安全・快適を実現する製品開発の推進</p> <p>居住空間、公共空間、気候変動、地球環境、高齢者、子どもの観点から安心・安全な製品を開発し、これらの拡販を通じ社会課題を解決する製品を増やし、住み続けられるまちづくりに貢献する。 新規5件、新商品累計31件</p> <ul style="list-style-type: none"> ●物流倉庫の安全に寄与する製品：コーナード 	
<p>基本姿勢 2</p> <p>環境と共に生きる 社会をクリエイトする</p>	<p>マテリアリティ：技術革新 KGI：資源循環の推進</p> <p>低炭素社会と資源循環型社会の実現に貢献する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ●資源循環の構築：環境ブランド「Fukuvalue」2030年度累計30アイテムを目指し、新規1アイテム（浴室用押出部材）、累計10アイテムを登録。 ●産業廃棄物の削減推進 ●CO₂排出量の削減推進 	
<p>基本姿勢 3</p> <p>スマートワークで 「一人ひとり」の 価値をクリエイトする</p>	<p>マテリアリティ：働きがいのある仕事の提供 KGI：デジタルの活用推進 従業員エンゲージメントの向上</p> <p>従業員エンゲージメントを高め、多様性と働きがいのある環境を実現させる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ●健康経営優良法人2026（大規模法人部門）認定 ●ダイバーシティ&インクルージョンの推進：採用女性比率 20.7%（2024年度：39.4%） ●人材育成・活性化：女性管理職 8.8%（2024年度：6.8%） ●柔軟な働き方の推進：在宅勤務利用率 35%（2024年度：19%）、男性育休取得率 75%（2024年度：31%） 	
<p>基本姿勢 4</p> <p>パートナーシップで 持続可能な 地域社会をクリエイトする</p>	<p>マテリアリティ：パートナーシップ・アライアンス KGI：パートナーシップによる価値の創出</p> <p>社外とのパートナーシップを高め、共通のテーマ・目標について協働することにより、自社のみでは達成しえない社会課題の解決に貢献する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ●パートナーシップ 新規12件（2024年度：13件） ●地域資源循環テーマ推進 	

2030 年度目標 (KPI)



※1 目標改定に伴い、2019年度比30%削減から変更
※3 2025年度の削減率は、目標改定後の範囲にて算出

※2 対象範囲を国内グループへ拡大

サステナビリティ・ESG の推進

当社グループでは、2023年4月にサステナビリティ委員会を経営会議の下部組織として設置し、その事務局機能および運営機能を担うサステナビリティ推進室(2026年4月より「サステナビリティ推進グループ」に改称)を立ち上げ、サステナビリティ・ESG推進体制の強化を図っています。

当社グループが持続可能な企業であり続けるため、サステナビリティ委員会はESGに関する情報の収集・分析を行うとともに、企業価値の向上に向けた方針・戦略の企画・立案・提言を行っています。

本委員会は当年度に2回開催し、第1回は「KPIの見直し」、第2回は「2030年度女性管理職比率20%達成に向けて」を主題としました。KPIの見直しについては、従来の削減目標を前倒しで達成する見込みとなったことに加え、国内外の環境政策の変化に対応するため、CO₂排出量および産業廃棄物排出量の削減目標を改定しました。CO₂排出量は基準年を2013年度に変更し、段階的な削減目標を再設定するとともに、産業廃棄物排出量は対象範囲を国内グループ全体へ拡大しました。これらの進捗は、委員会等にて継続的に確認していきます。また、気候変動への対応状況の把握および環境

情報開示の充実を目的として、CDP気候変動質問書に初めて回答しました。

これらの対応を通じて、課題の整理および今後の施策検討に活用していきます。

また、サプライチェーンにおけるCO₂排出量をより正確に把握するため、2024年度のScope3については、当社単体に加え、国内連結子会社4社を含めて算定し、公開しました。

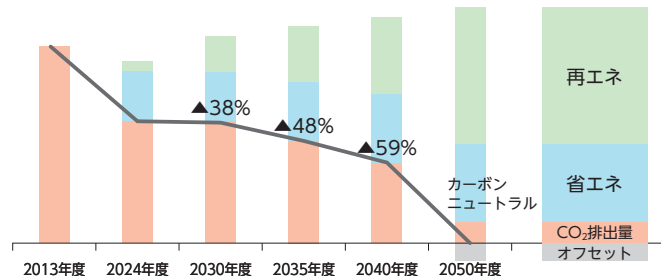
当社グループは環境面に加え、人的資本の価値最大化やダイバーシティ&インクルージョンの推進にも注力しています。従業員の健康管理を経営的な視点で捉え、戦略的に取り組んだ結果、「健康経営優良法人2026(大規模法人部門)」に3年連続で認定されました。加えて、仕事と家庭の両立を支援する制度の整備や、多様な人材が活躍できる仕組みづくりが評価され、厚生労働省より「えるぼし認定(二つ星)」を取得しました。

引き続き、これらの進捗状況に関する情報開示を行うとともに、ステークホルダーとのコミュニケーション強化など当社グループのサステナビリティ活動の支援や、資源循環に関する取り組みの企画・立案および実行を推進していきます。

CO₂ 排出量削減目標

我が国の「2050年カーボンニュートラル」に向けた方針および産業部門の目標に沿うため、国内グループにおいて基準年を2013年度に変更し、段階的な削減目標を設定しました。

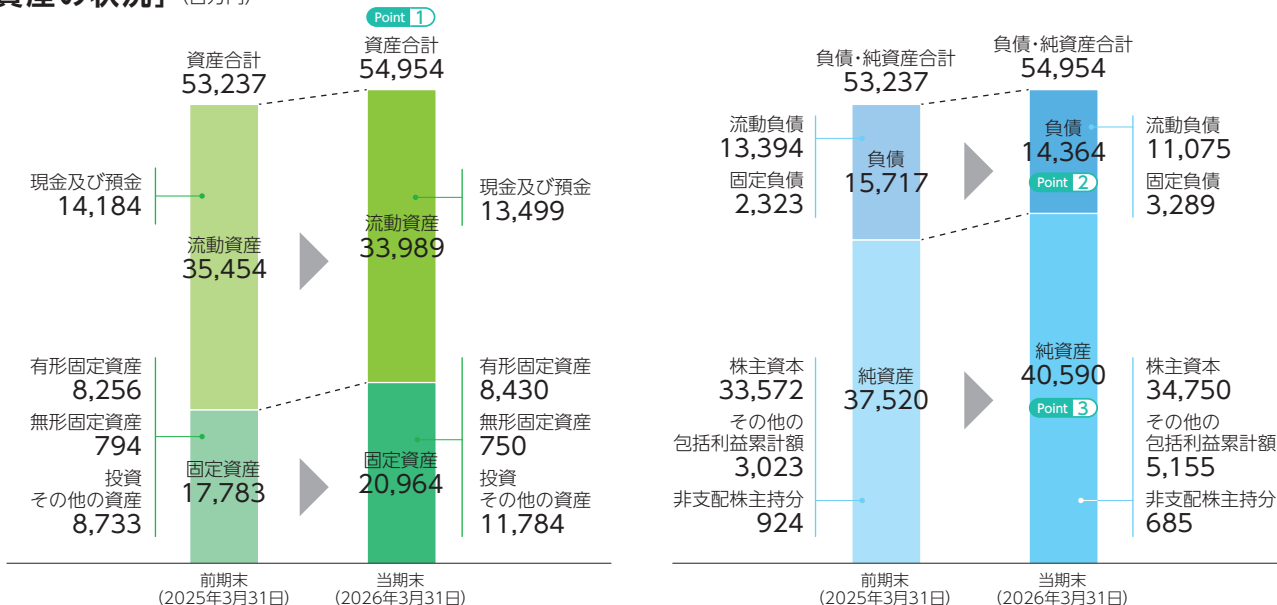
- 2030年度：2013年度比 38%削減
- 2035年度：2013年度比 48%削減
- 2040年度：2013年度比 59%削減
- 2050年度：カーボンニュートラル(実質ゼロ)



93期(2026年度)強化方針：TCFDへの対応

連結財務諸表の概要

[資産の状況] (百万円)



資産の状況

Point 1 総資産 (= 資産合計)

総資産は前連結会計年度末に比べ17億17百万円(前期末比3.2%)増加し、549億54百万円となりました。主な増減要因としては、流動資産では、棚卸資産が3億35百万円増加した一方で、現金及び預金が6億85百万円減少したことや売上債権が12億5百万円減少したことなどにより、14億64百万円(同4.1%)の減少となりました。固定資産では、有形固定資産が1億74百万円増加したことに加え、投資有価証券の時価評価額の上昇で投資その他の資産が30億51百万円増加したことなどにより、31億81百万円(同17.9%)の増加となりました。

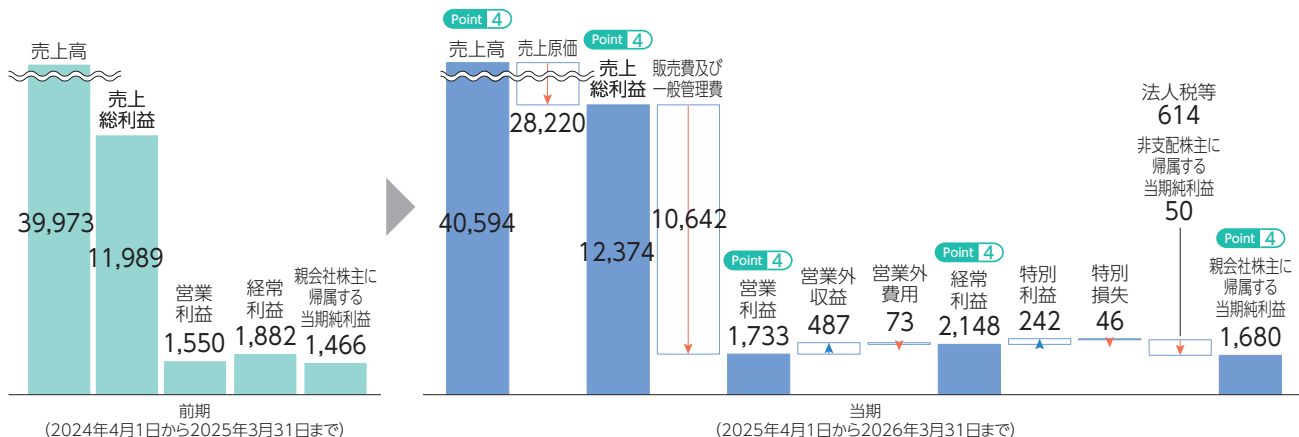
Point 2 負債

負債は前連結会計年度末に比べ13億53百万円(前期末比8.6%)減少し、143億64百万円となりました。主な増減要因としては、流動負債では、仕入債務が23億3百万円減少した一方で、未払費用が71百万円増加したことなどにより23億19百万円(同17.3%)の減少となりました。固定負債では、リース債務が61百万円減少した一方で、繰延税金負債が9億91百万円増加したことなどにより、9億65百万円(同41.6%)の増加となりました。

Point 3 純資産

純資産は前連結会計年度末に比べ30億70百万円(前期末比8.2%)増加し、405億90百万円となりました。主な増減要因は、その他有価証券評価差額金が14億24百万円増加し、利益剰余金が11億7百万円増加したことなどです。株主資本合計は347億50百万円となり、この結果、自己資本は399億5百万円となりました。成長戦略の一環として当社の子会社であるリフォジュール株式会社の株式を追加取得したため、非支配株主持分が2億40百万円減少し、自己資本比率は前期末の68.7%から3.9ポイント改善の72.6%となりました。

[損益の状況] (百万円)



損益の状況

Point 4 売上高・営業利益・経常利益・親会社株主に帰属する当期純利益

当連結会計年度の売上高は、新築・リフォームを問わず求められる高性能断熱材の伸長に加え、非住宅建物向けや車両関連部材が復調したことから405億94百万円と前期比1.6%の増収となりました。

建材事業において、全体の売上高は前期比0.8%減、営業利益は同5.3%増となり、増益を確保しました。住宅着工戸数の減少に伴い汎用品が影響を受けたものの、成長領域へのシフトが順調に進捗しカバーした形となりました。特に、高性能断熱材『フェノバボード』をはじめとする断熱事業や、非住宅・リフォーム向け製品(『プラスッド』、『OAフロア』等)、環境配慮型製品へのポートフォリオ拡大を加速しています。また、フジビ岡山でのフェノバボードの増産体制構築に向けた新工場投資など、さらなる事業拡大に向けた体制を強化してまいります。

CSE事業において、全体の売上高は、前期比1.0%増、営業利益は同52.3%増となり、増収および大幅な増益となりました。バスなどの大型車両向け需要が好調に推移したことに加え、イルミネーション部材『光ガイディングバー』や物流資材『樹脂製フォークガード』

など、モビリティ分野での売上が利益拡大に大きく貢献しました。

精密事業において、全体の売上高は前期比30.0%増、営業利益は同122.0%増となり、大幅な増収増益となりました。車載向け部材の売上が下半期にかけて大きく伸長したほか、非車載分野においてもレンズカバー製品が売上を牽引しました。製造原価低減策も寄与し、収益性が改善しました。

グローバル事業において、全体の売上高は前期比9.5%増、営業利益は93百万円の改善となりました。ASEANや米国での建材ビジネスが順調に推移し、また、新規OEM品や海外向け車両部材の販売が好調に推移した結果、増収に寄与しました。利益面においても、各現地法人で徹底した原価低減および販管費の抑制により、赤字幅を縮小しました。

利益面につきましては、売上総利益は製造コストの上昇に対して生産性の向上に取り組み、123億74百万円(前期比3.2%増)となりました。営業利益は人件費やデジタル関連費用が増加したものの、売上総利益の増加によりこれを吸収し、17億33百万円(同11.8%増)の増益となりました。経常利益は為替差益等の計上もあり21億48百万円(同14.1%増)、親会社株主に帰属する当期純利益は投資有価証券売却益等の計上により16億80百万円(同14.6%増)となりました。

会社の概要

会社の概要

(2026年3月31日現在)

創 立 1953年5月25日

資 本 金 21億9,390万円

U R L <https://www.fukuvi.co.jp/>

取締役・監査役、顧問

(2026年6月18日現在)

代表取締役会長 CEO 八 木 誠一郎

代表取締役社長 COO 森 克 則

取締役専務執行役員
経営戦略本部長 CFO 多比良 幸 一

取締役常務執行役員
生産イノベーション本部長 CTO 小 林 俊 幸

取締役 諫 山 滋

取締役 松 田 邦 紀

取締役 強 力 真 一 国立大学法人福井大学
産学官連携本部 客員教授

常勤監査役 大 畑 忠

監査役 戸 田 和 範 戸田和範税理士事務所長

監査役 橋 爪 麻紀子 株式会社日本総合研究所
創発戦略センター
シニアマネージャー

顧問 鎌 田 昌 利 長瀬産業株式会社
取締役専務執行役員

顧問 采 野 進

各事業セグメントの概要

建 材 事 業 外装建材、内装建材、床関連材、システム建材等の開発・製造・販売および建設工事設計施工

C S E 事 業 住宅設備、車両分野を主としたユーザーからの受注によるOEM製品・ODM製品等の開発・製造・販売

精 密 事 業 反射防止付樹脂シートを主とする機能性コーティング製品の開発・製造・販売

グローバル事業 海外市場向けの外装建材、内装建材等の開発・製造・販売

(注) CSEとは、Customer Satisfaction & Expectationの頭文字をとった造語。

株 主 メ モ

事 業 年 度 4月1日から翌年3月31日まで

定 時 株 主 総 会 毎年6月に開催いたします。

基 準 日 定時株主総会の議決権 3月31日
期 末 配 当 3月31日
中 間 配 当 9月30日

※その他必要がある場合は、あらかじめ公告する一定の日

公 告 方 法 電子公告により行います。
ただし、電子公告によることができないやむを得ない事由が生じた場合は、日本経済新聞に掲載いたします。

<https://www.fukuvi.co.jp/>

上 場 証 券 取 引 所 東京スタンダード市場・名古屋メイン市場
単 元 株 式 数 100株

株主名簿管理人および
特別口座の口座管理機関 東京都千代田区丸の内一丁目4番1号
三井住友信託銀行株式会社

株 主 名 簿 管 理 人 大阪市中央区北浜四丁目5番33号
事 務 取 扱 場 所 三井住友信託銀行株式会社 証券代行部

郵 便 物 送 付 先 〒168-0063
(電 話 照 会 先) 東京都杉並区泉二丁目8番4号
三井住友信託銀行株式会社 証券代行部
電 話 0120-782-031 (フリーダイヤル)

ご注意

未受領の配当金につきましては、三井住友信託銀行全国本支店にてお取扱いいたします。

株式の状況 (2026年3月31日現在)

株式の状況

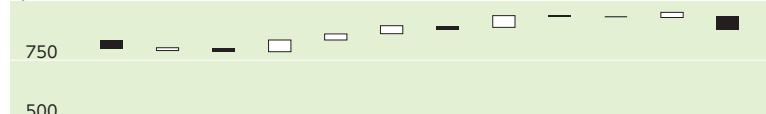
株式の総数	
発行可能株式総数	63,000,000 株
発行済株式の総数	19,792,442 株 (自己株式895,983株を除く)
当期末現在の株主数	3,872 名

大株主

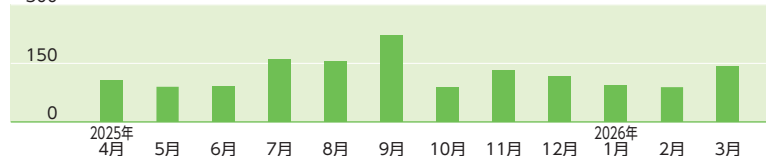
株主名	持株数
株式会社八木熊	2,574,140 株
長瀬産業株式会社	2,464,308
株式会社日本カストディ銀行 (三井住友信託銀行再信託分・三井化学株式会社退職給付信託口)	1,855,885
三井物産プラスチック株式会社	983,220
八木誠一郎	829,703
株式会社福井銀行	710,300
昭和興産株式会社	669,573
株式会社北陸銀行	624,900
フクビ化学工業従業員持株会	600,808
蝶理株式会社	600,382

株価チャート

株価の推移 (単位:円)
1,000

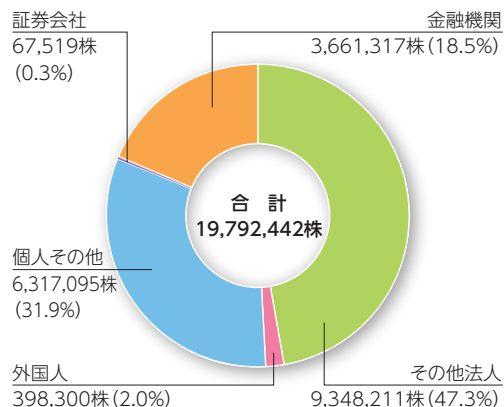


出来高の推移 (単位:千株)
300

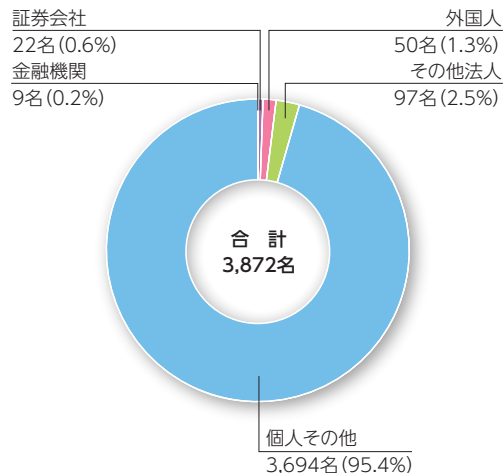


株主分布状況

〈所有数別〉



〈所有者別〉



株主さま工場見学会のお知らせ

当社では、株主の皆さまにより一層当社へのご理解を深めていただくために工場見学会を開催いたします。皆さまのご応募を心よりお待ちしております。

- 対象者** 30名さま(ご同伴者さま含む)
2026年3月31日現在、
当社株式100株以上ご所有の株主さま。
※株主さま以外に、1名さまのご同伴が可能です。
なお、安全上の配慮から、ご同伴者さまは中学生以上とさせていただきます。また当日申し込みはお受けできません。

- 開催日時** 2026年9月25日(金)
13:00~17:00

- 開催場所** フクビ化学工業株式会社 本社
(福井市三十八社町33-66)
本社工場 および ショールーム

- 見学内容** 本社工場、ショールーム見学、
質疑応答など。
※ご見学時は、1時間程度(予定)の徒歩移動、バスの乗り降りや階段の昇り降りがございますので、ご了承ください。

- 参加費用** 無料
※集合・解散場所(JR福井駅東口を予定)までの往復交通費・宿泊費等は、株主さまのご負担となりますので、お申し込みいただく場合には、ご了承ください。
※集合・解散場所と当社の往復は当社手配のバスで移動いただきます。

- その他**
 - 駐車場のご用意はございませんので、恐れ入りますが、当社へのお車でのご来場はご遠慮願います。
 - 株主さまご本人からのご応募でない場合、ご応募は無効とさせていただきます。

お申し込み方法

見学を希望される株主さまは、同封の「株主さま工場見学会応募はがき」に必要事項をご記入いただき、2026年7月17日(金)必着にてご応募ください。

記入例

株主番号 (9桁)		預貯の(配当金計算書)右上に記載の9桁の数字								
1	2	3	4	5	6	7	8	9		
株主さま										
ふりがな	ふくび たろう									
お名前	福美 太郎									
	〒918-8588 福井 県 福井市									
ご住所	三十八社町33-66									
性別	<input checked="" type="radio"/> 男 <input type="radio"/> 女 年齢 50 歳									
電話番号	0000-00-0000 ※当日連絡のたれる電話番号をご記入ください。									
ご同伴者さま (1名さままで)										
ふりがな	ふくび はなこ									
お名前	福美 花子									
性別	男 <input checked="" type="radio"/> 女 <input type="radio"/> 年齢 50 歳									

個人情報保護のため、同封の「個人情報保護シール」を個人情報記載欄の上に貼付し、ご投函ください。

※お申し込み多数の場合は厳正な抽選とさせていただきます。抽選結果は、お申し込みいただいた皆さまへ、2026年8月上旬に発送(郵送)予定です。なお、ご当選された方には、当日の運営詳細等も併せて通知いたします。

ご送付先およびお問合せ先

福井市三十八社町33-66
フクビ化学工業株式会社 広報・IR推進部
TEL:0776-38-8415 8:30~17:00 (土日・祝日、当社休日を除く)

独自の技術で未来をひらく



この事業報告書は、
環境に配慮し、植物油・インキ
を使用しております。

